



消防大学校だより



救助科における教育訓練 ～新たなステージのスタート～

消防大学校では、救助業務に関する高度の知識及び能力を専門的に修得させるとともに、教育指導者としての資質を向上させることを目的として専科教育「救助科」の教育訓練を実施しています。

令和8年度の第92期は4月15日から6月8日までの日程で実施され、48名の学生が、240 時間の教育訓練を終え無事卒業しました。

この救助科では「安全管理」「指揮能力の向上」「初心」を柱に幅広い分野の講義や実災害に即した訓練を実施しました。

実動訓練においては、火災救助、山岳救助、震災救助等の一般的な救助事象から地域性のある救助事象に対する訓練をはじめ、各地域で発生している多数傷病者対応、大規模イベントにおいて発生が想定される NBC テロ災害等の大規模災害対応、また近年増加している土砂災害など、多岐に渡る実践的訓練を展開し、現場指揮者として指揮・判断力や安全管理能力の向上を目指しました。



土砂災害対応訓練

さらに校外研修では、東京消防庁災害史安全教育室や日本航空安全啓発センターを訪れ、改めて現実には発生した事故の怖さを実感し、消防活動中の事故を起こさないために、凡事徹底そして多角的に収集した情報に基づく冷静な判断が求められることを再認識しました。

課題討議では、各消防本部が注力していることについて、班ごとに協議して1つのテーマに絞ったうえ、討議・研究してその結果を発表しました。発表後は主に「人材育成」と「安全管理」の2つのテーマについて見識を深めるべく、消防大学校の教官や消防庁の担当者との意見交換が活発に行われました。

最終の学生企画訓練では、新たな試みとして緊急消防援助隊を想定した中隊規模の訓練を実施しました。この訓練では、実災害に必要な部隊運用能力を総合的に練



学生企画訓練

磨することを目的として、学生が企画、実施、評価を行うことで、複数小隊の連携、指揮命令系統、安全管理体制の確立、検証を含む多様な要素を総合的に習得することができました。

訓練当日は、各地で記録的な大雨となった台風6号の影響により、予定していた教育支援隊の参加が叶わず、大雨のため訓練の開始時間を遅らせるなど予定通りとはいきませんでしたが、それもまた訓練の一側面、柔軟に対応することによって、より高い教育効果が得られたものと思います。

研修を終えた学生からは、「危険要因を把握し、最悪の事態を想定しながら活動することの重要性を改めて認識しました。」「現場での経験則や個人に頼る救助ではなく、指揮隊を中心とした一元的な命令系統がいかに部隊の安全と迅速な活動を左右するかを学びました。」「救助隊員としての原点である「初心」の大切さを再認識する機会となりました。慣れや経験に頼るのではなく、常に学ぶ姿勢を持ち続け、基本を大切にすることが安全で確実な活動につながると感じています。」等、有益であったとの所感が数多く寄せられました。

今後は、消防大学校での学びを確実なものとしつつさらに発展させ、殉職事故を絶対に発生させないという強い決意のもと、人命救助のエキスパートとして人材育成による組織力の強化と救助業務の指導者としての活躍に期待しています。



入学式（全体写真）

緊急消防援助隊教育科指揮隊長コースにおける教育訓練

消防大学校では、令和8年5月7日から21日までの約2週間の日程で、令和8年度緊急消防援助隊教育科指揮隊長コース第31回を実施しました。

本コースは、緊急消防援助隊の指揮支援部隊長等の部隊指揮・部隊運用能力向上を目的として実施したものであり、部隊運用や各関係機関との連携の重要性に加え、能登半島地震、林野火災、過去の災害対応等教訓を踏まえ、消防庁広域応援室と目的や手法等について調整しながら学科カリキュラムを作成しました。

今回のコースでは、「受援」を最大のテーマとして位置づけ、応援側・受援側双方の視点を踏まえた教育訓練を実施しました。

本コースでは、緊急消防援助隊の派遣活動経験を活かすため、過去の災害における課題を振り返りながら、統括指揮支援隊長、指揮支援隊長、都道府県大隊長など、立場の異なる指揮者から、派遣時における部隊運用や課題について講義を受けました。これにより、大規模災害時における指揮運用の重要なポイントについて、より具体的なイメージを持つことにつながりました。



指揮シミュレーション訓練

また、消防庁広域応援室からは、新設部隊の活用方法、動態情報システム（DJS）端末の効果的な運用方法、後方支援体制等について講義を受けたほか、消防庁長官講話では、指揮隊長に求められる責任や覚悟、期待される役割について理解を深めました。

緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災の発生を契機に、平成7年に発足し、昨今の自然災害の頻発化・激甚化とともに、首都直下地震や南海トラフ地震等の切迫性を背景に、継続的な強化が図られています。消防大学校においても、本コースの内容をより充実させるため、昨年度

から研修期間を2日間延長しています。

さらに、近年、大規模な林野火災が相次ぎ、緊急消防援助隊の派遣が増加していることを踏



受援図上訓練

まえ、大規模災害時における受援の流れを理解するとともに、受援側の視点・ニーズを踏まえた対応、受援と応援を一体的に捉えた活動能力の向上を目的として、受援アドバイザーを招へいし、消防大学校初となる林野火災を想定した受援図上訓練を実施しました。

学生からは、「緊急消防援助隊制度について改めて学び直すことができた」「出勤要請時の判断基準や必要情報、航空隊と地上部隊の連携について理解が深まった」「指揮シミュレーション訓練を通じ、指揮隊長として重責を担う覚悟ができた」「受援図上訓練を通じて、応援側と受援側の連携や情報共有、一体的な部隊運用の重要性を再認識した」などの所感が寄せられました。

最後に、本コースを通じて指揮隊長たちが得た知識、能力及び全国の消防本部間の横の繋がりが今後、各所属消防本部に還元され、大規模災害発生時における緊急消防援助隊の一体的かつ効果的な部隊運用につながるものと確信しています。



全体写真

問合せ先

消防大学校教務部
TEL:0422-46-1712